

皆さんのご意見を 新市のまちづくり計画へ 7月から地区別懇談会など開催

～ 6月1日市役所で「第1回新市まちづくり委員会」開催～

4月17日開催の野田市・関宿町合併協議会で、『合併したら新市がどのようなまちづくりを行っていくか』を住民参加で検討を進めることが必要、との決定を受け、6月1日、「新市まちづくり委員会」が発足しました。同委員会では、事務局から合併の財政効果や市町村建設計画作成の説明を受

け、その後、新市のまちづくりの課題に関する多数のご意見が委員から出されました。さらに今後、合併協議会では地区別懇談会などの開催をはじめ、郵便やファックス、Eメールなどでも皆さんのご意見を広くお聞きしていきます。

「市町村建設計画」は長期構想と同様住民参加で野田市、関宿町の長期構想(総合計画)は、それぞれ「まちづくり市民100人委員会」と「21世紀まちづくり懇談会」からの提言をスタートとして、地区別懇談会や各界別懇談会など徹底した住民参加により作成されてきました。

いずれの計画も始まったばかりであることや、徹底した住民参加で作られてきていることから、新市のまちづくり計画ともいえる「市町村建設計画」の作成にあたって、それぞれの長期構想をベースにするのが適当と考え、長期構想と同様に住民参加で作成していくこととしました。

そこで6月1日、「まちづくり市民100人委員会」と「21世紀まちづくり懇談会」のメンバーからなる119人(うち女性は47人で39.49%)の「新市ま



市役所で開催された「第1回新市まちづくり委員会」

ちづくり委員会)(寺田禎之委員長、江原正子副委員長)を立ち上げました。

新市まちづくり委員会の役割

「市町村建設計画」は、両市町の長期構想をベースに作成することになりますが、それぞれの長期構想にはその内容に重複した部分があり、調整が必要な事項があります。

また、当然のことですが、現行の長期構想には、新市の一体性を醸成したり均衡ある発展を図るために必要な事業が想定されていません。

そこで、合併協議会では、両市町の長期構想の重複した部分や新市の一体感を高めることの2つを中心として新市まちづくり委員会のご意見をお聞きしていきます。



委員会では資料を使ったくわしい説明も

さらに広く皆様のご意見を募集

合併協議会では、新市まちづくり委員会のご意見を踏まえ、さらに地区別懇談会、各界別懇談会を開催して、多くのご意見をいただき、また、郵便やファックス、Eメールでも住民の皆さんから広くご意見を聴取していき、それらのまとめられたすべてのご意見は、合併協議会で新市の建設計画（市町村建設計画）をつくるためのベースとし

ていく予定です。

皆さんの地区別懇談会へのご参加やご意見をお待ちしております。

その後、市町村建設計画案ができた段階で再度新市まちづくり委員会、地区別懇談会、各界別懇談会等を開催して住民の皆さんに説明してご意見をいただき、最終的に協議会において市町村建設計画を作成いたします。

第1回新市まちづくり委員会会議の内容

第1回新市まちづくり委員会では、第1回合併協議会で決定した「全体の進め方」、「市町村建設計画作成の進め方」や「合併の財源について」事務局から説明があり、その後、協議事項として、「長期構想の重複事項」と「新市の一体性の醸成、均衡ある発展のための事業」の2つのテーマについて意見交換に入りました。

「全体の進め方」や「市町村建設計画作成の進め方」については、創刊号でお知らせしていますので、本号では、合併の検討に当たってのポイントとなる「合併の財源について」と「長期構想の重複事項」、「新市の一体性の醸成、均衡ある発展のための事業」に関して、6月1日の新市まちづくり委員会での説明内容を掲載しました。

[1] 合併の財源について

国・県では、合併特例法の期限（平成17年3月31日）内での市町村合併の促進を図るため、「合併特例債」をはじめとした財政支援策を講じています。

この合併特例債を有効活用すれば、市の負担が約3割で事業が実施でき、財政状況が厳しさを増す中で市民要望が実施可能となります。

合併特例債

合併特例債の効果

- ・地方交付税特別会計が425兆円の負債を抱える中、小泉改革等の影響で地方交付税がここ2年間で野田市と関宿町合わせて約19億円減少しています。これは両市町がまちづくりに費やしている経費約90億円の20%強に相当しており、この分まちづくりのペースを遅らせざるをえなくなっています。

【野田市と関宿町の交付税額】

| 平成12年度 | 平成14年度 | 増減 |
|-----------|-----------|---------|
| 50億3500万円 | 31億4000万円 | - 約19億円 |

- ・このままでは、まちづくりのペースが大幅に遅れてしまいますが、合併することで1年当たり23億円の合併特例債の発行が可能となり、まちづくりのペースをほぼ維持することができます。
- ・合併特例債では、その償還費の70%を国が交付税措置するので、市の負担は30%になります。23億円の合併特例債では、市の負担は6.9億円です。
- ・このように、69億円の負担で23億円分の起債を行い、まちづくりの資金に充てます。
- ・一方、交付税措置のない通常の起債では、69億円の負担では同額の事業しか行えません。
- ・そこで、69億円分通常の起債を止め、それで合併特例債を発行すれば、市の負担を変えることなく23億円の事業が可能になります。通常の起債で行うはずだった事業69億円分を除いても、約16億円多くまちづくりを進めることができます。これで、地方交付税の減少分19億円の多くの部分を回復することができます。

合併特例債の対象となる事業

新市の一体性の速やかな確立を図るために行う公共的施設の整備

新市の均衡ある発展に資するために行う公共的施設の整備

新市の建設を総合的かつ効果的に推進するために行う公共的施設の統合整備

の、いずれかに該当する事業で「市町村建設計画」盛り込まれたものです。

合併特例債の概要

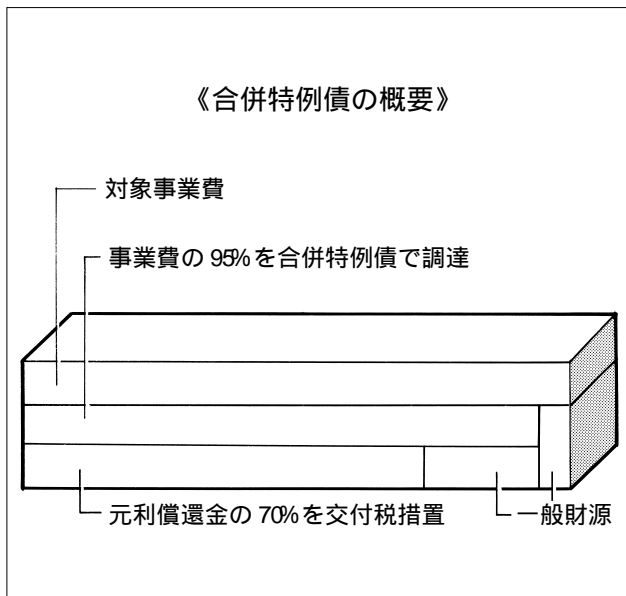
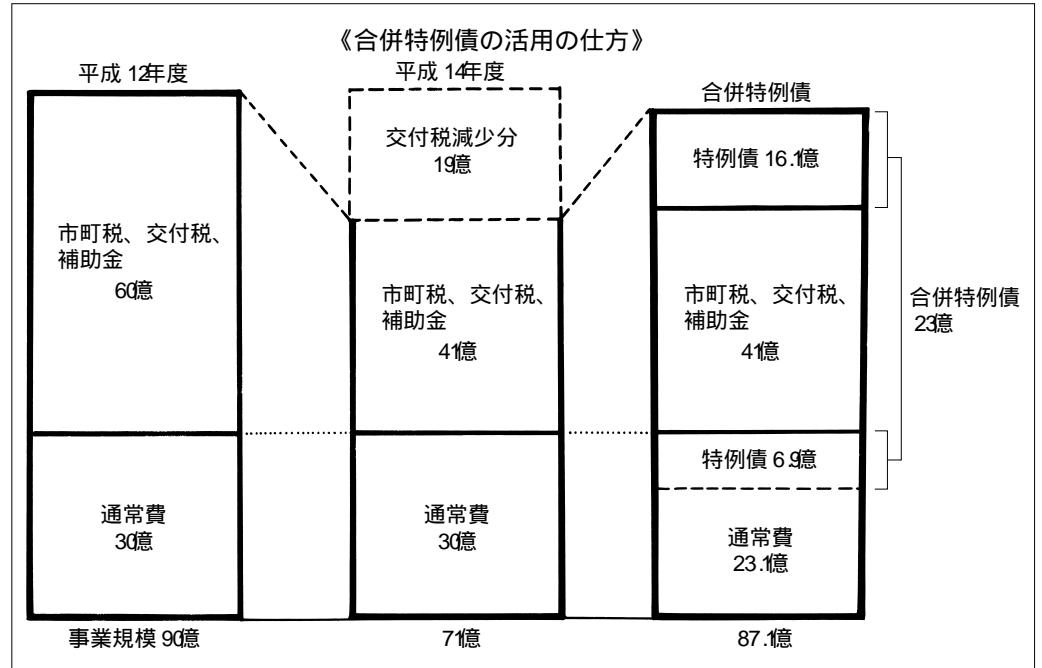
市町村建設計画に基づいて行う一定の事業に要する経費等については、合併年度とこれに続く10年間、合併特例債を財源とすることができ、その

元利償還金の一部について、普通交付税措置が講じられることになっています。

【発行額】野田市・関宿町の場合、総額232億円発行可能

【充当率】対象事業費の95%について合併特例債の発行が可能

【算入率】元利償還金の70%について普通交付税の基準財政需要額に算入（＝普通交付税として交付される）。232億円発行する場合、162億円が交付税措置される。



| | 職員一人あたり市民数 | 職員総数 | 減員数 | コスト減 |
|-------|------------|--------|-----|------|
| 野田市役所 | 117.9人 | 1,031人 | - | - |
| 関宿町役場 | 97.0人 | 327人 | - | - |

| | | | | |
|-------|--------|---------|-------|-------|
| 流山市なみ | 127.0人 | 約1,180人 | -180人 | 約15億円 |
|-------|--------|---------|-------|-------|

野田市では技能労務職の定年不補充で毎年約10人減員していますが、さらに重複部門で定年不補充を実施することで短期間にスリム化を実現できます。野田市役所と関宿町役場を合わせると、今後10年間で270人の職員が定年を迎える予定です。このうち一部を不補充とすることでスリム化していきます。

また、スリム化した分、理学療法士など必要性の高まっている専門職の採用・増強も可能になります。

行政組織のスリム化効果

サービスを低下させずに整理統合が可能

合併すると秘書広報課、議会事務局など、共通の内部管理部門や行政委員会事務局は市民サービスを低下させることなく、組織を半減ちかくまで整理統合することが可能です。

流山市なみの効率性（180人減）で年間15億円の経費節減

定年不補充を進めることで職員一人あたりの市民数で見て流山市（新市の人口と同水準）なみに効率化すれば、180人削減でき、年間約15億円の経費削減が可能になります。

重複部門の定年不補充の強化で短期間でスリム化を実現

合併のメリットでプラスも

野田市民のメリット・デメリット

- ・編入合併を前提とすれば、基本的に行政サービスは変わることがないか、または向上します。
- ・したがって、野田市民にとってのメリット・デメリットは、合併特例債や行政組織スリム化のメリットと、合併に伴い関宿町のサービス向上や施設整備を行うための財政負担との比較の問題になります。
- ・現在合併協議会でサービス水準や行政組織を具体的にどうするかについて議論しており、メリット・デメリットに関する精度の高い数字はこれらが決まってくる段階で明らかになります。

- ・現段階でわかっている範囲では、合併に伴う財政負担を賄っても、なお合併のメリットが十分に残り、野田市域においてもまちづくりや行政サービスの向上を進めていくことができると考えています

メリット

- | |
|--|
| 1. 合併特例債...23億円の合併特例債でまちづくり（償還につき国が16億円支援） 2. 行政組織スリム化...定年不補充を進め180人削減すると年間15億円（注1） 3. 県の合併促進事業 |
|--|

財政負担

- | | |
|---|-----|
| 1. 関宿町のサービス向上の費用（注2） 2. 関宿町において都市基盤の均衡を図るための費用（注3） | プラス |
|---|-----|

- 注1) 行政組織のスリム化は、定年を迎えた職員の補充を行わない形で進めていくので、合併と同時に180人のスリム化が達成できるわけではありませんが、一度スリム化すればそのメリットは将来にわたって続きます。
- 注2) 関宿町のサービス向上に要する費用は現在精査していますが、ある程度の費用（年間数億円）を要するものと予測しています。
- 注3) 例えば、主要な都市基盤である道路の改良率、舗装率を野田市なみに引き上げるための費用は1年当たり7億円（全体70億円）。この他にも整備すべき都市基盤はありますが、大きな支出を要する上下水道は整備不要と考えています。

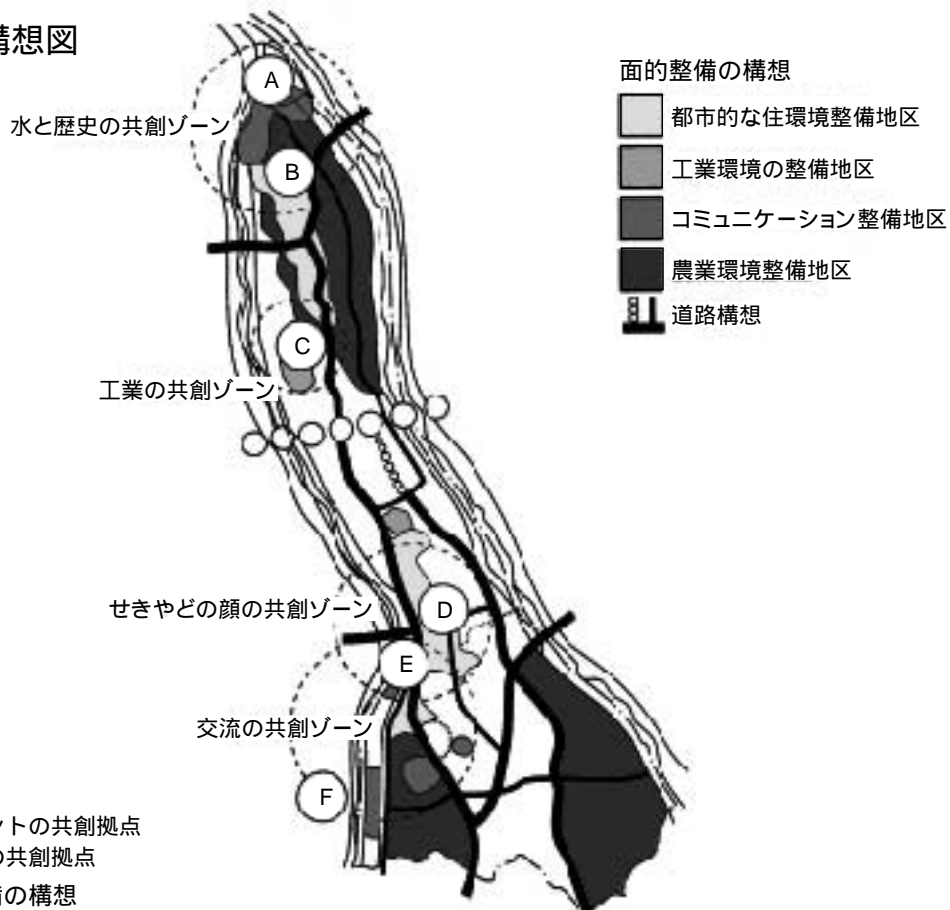
関宿町民のメリット・デメリット

- ・上記の合併特例債や行政組織のスリム化は、関宿町民にとってもメリットとなるものです。これらにより財政基盤が強化されることになり、また専門職の採用などによる行政能力の向上も実現できます。
- ・個々の行政サービスを見ても、ほとんどの場合野田市の行政サービスの水準がより高いことから、全体としてサービス水準は向上するものと考えます。また、都市基盤整備の均衡を図るために施設整備が促進されます。
- ・デメリットとしては、市役所までの距離が遠くなることによる利便性の低下や住民の声が届きにくくなるとの懸念があります。
- ・しかし、窓口サービスを維持・充実することにより行政との接点を確保することで解消できると考えています。

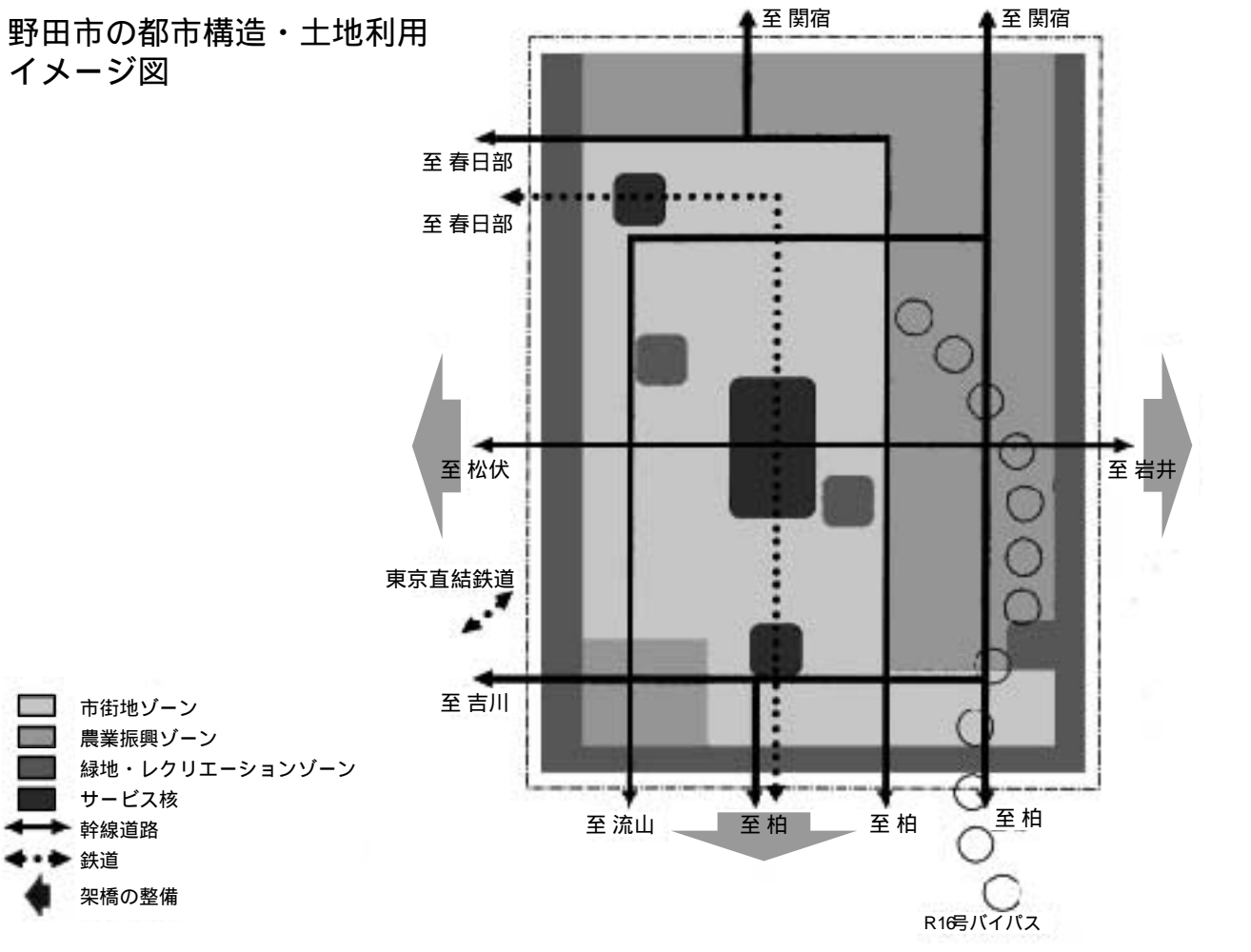
[2] 新市まちづくり委員会の課題

市町村建設計画は、長期構想をベースに作成するので、そこで位置付けられた事業で構成されます。しかしながら、両市町の長期構想にはその内容が重複しており調整が必要なものがあります。また当然のことですが、現行の長期構想には、新市の一体性を醸成したり均衡ある発展を図るために必要な事業が盛り込まれていません。

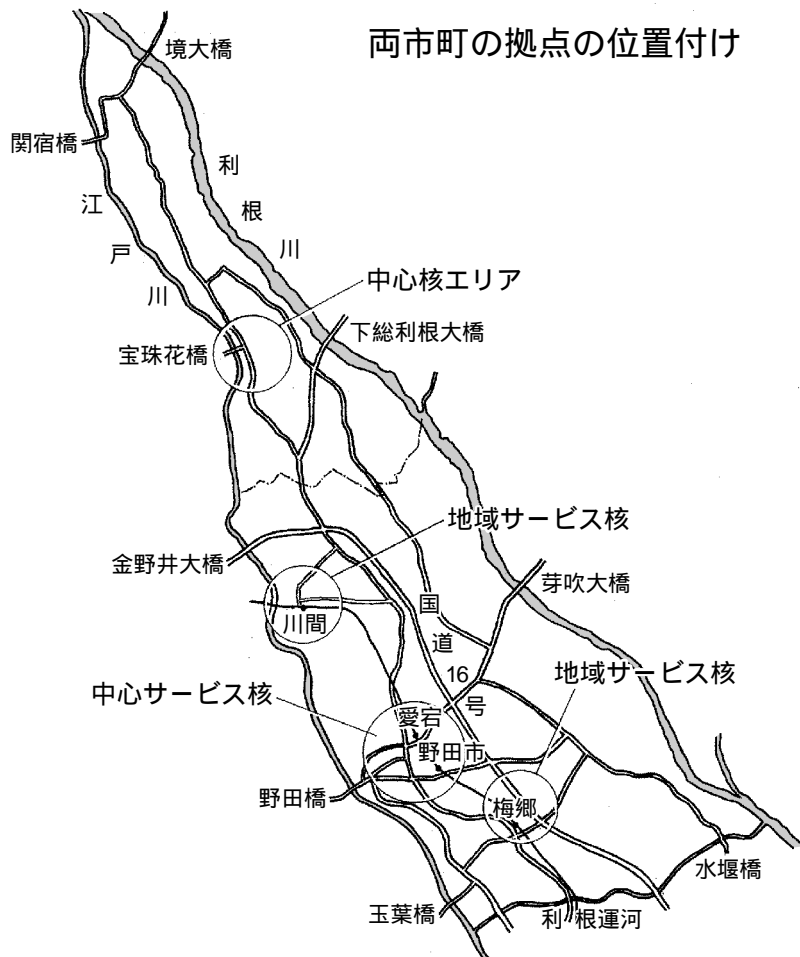
関宿町の土地利用構想図



野田市の都市構造・土地利用イメージ図



両市町の拠点の位置付け



そこで、新市まちづくり委員会や地区別懇談会、各界別懇談会において、その2つの点についてご意見をいただいています。

課題1 長期構想の重複事項

住民要望をまとめ上げて作成された長期構想をできるだけ活かすため、市町村建設計画は、野田市の総合計画に閑宿町の総合計画の要素を加える形で作成していきます。この時、両市町の長期構想において調整しなければならない重複事項とは、閑宿町の新市における位置付け、二重投資となるおそれのある施策・事業の整理になります。

重複事項1 閑宿町の新市における位置付け

- ・閑宿町の長期構想では、土地利用構想として、住環境整備地区、工業環境整備地区、コミュニケーション整備地区、農業環境整備地区に区分しています。また、4つの共創ゾーンと6つの共創拠点を設定し、閑宿中央ターミナルを中心としたエリアを中心核と位置付けています。
- ・一方、野田市の長期構想では、市域を市街地ゾーン、緑地・レクリエーションゾーン、農業振興ゾーンに区分するとともに、愛宕駅・野田市駅周辺地域を中心サービス核、梅郷駅周辺地域及び川間駅周辺地域を地域サービス核と位置付けています。
- ・閑宿町の町域を新市においてどのように位置付けていけば、新市として一体性のあるまちづくりが実現できるでしょうか。

【ご意見をいただくポイント】

閑宿町の中心核とされている点を踏まえ、閑宿中央ターミナルエリアをどう位置付けるか。

との関連で現在の町役場をどう有効活用していくか。

4つの共創ゾーン、6つの共創拠点の考え方を新市のまちづくりにどう活かしていくか。

重複事項2 二重投資のおそれのある施策・事業

両市町の長期構想では、それぞれいくつかの公園と体育施設の整備計画が盛り込まれています。また、博物館の整備拡充についても両市町の長期構想に盛り込まれています。新市においては、両市町の施設を利用することが可能になるので、計画されている公園、体育施設、博物館の必要性や役割を整理する必要があります。

そこで、それぞれの計画において、過剰な施設はないか、役割の棲み分けができるか、など住民にとって有用有益な公園、体育施設、博物館の整備のあり方についてご意見をお聞かせください。

課題2 一体性の醸成、均衡ある発展のための事業

野田市と閑宿町の住民の皆さんがどうしたら新市の住民としての一体感をもつことができるか。

また、この地域がどうしたら将来に向けて発展していけるのか。皆さんの自由な発想でのご意見をお聞かせください。なお、合併重点支援地域の指定にあたって、野田市と閑宿町で検討した野田市政100年の計、県への8つの要望（野田市4件、閑宿町4件）は、7ページに掲載しました。

【二重投資のおそれのある施設】

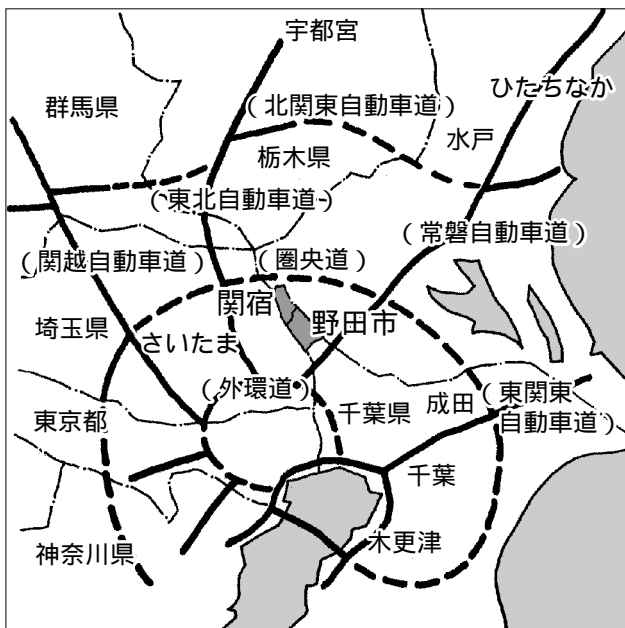
| 施策名 | 野 田 市 | 閑 宿 町 |
|----------|--|---|
| 公園及び体育施設 | 総合公園 設置済みのもの 体育館、水泳場、野球場、庭球場、自由大広場、芝生広場、水生植物園 整備中のもの 陸上競技場（トラックのみ） 今後計画しているもの 陸上競技場のスタンド | 総合公園 設置済みのもの 幼児用プレイロット、ゲートボールコート、修景池 整備中のもの 体育館（平成14～16年度で整備） 今後計画しているもの 多目的広場、夕日の丘、テニスコート、野球場 |
| | スポーツ公園 設置済みのもの 利根川河川：前浦イベント広場、お祭り広場、多目的広場、ひばり・けやきゴルフ場 整備中のもの 野鳥の森（15、16年度で整備） 14年度は実施設計 今後計画しているもの スポーツ公園内町田地区の整備計画 | 広域的公園 河川空間を利用し、県立閑宿城博物館を中心とした公園の整備計画 設置済みのもの にこにこ水辺公園（駐車場、芝生広場、パーゴラ、東屋、大型遊具1、小型遊具5、アスレチック遊具4） 整備中のもの にこにこ水辺公園（多目的広場） |
| | 墓地公園 墓地及び緑地の整備計画 | |
| 博物館 | 郷土博物館 文化遺産の収集、整理保管、調査研究、展示等を行う施設 現状について 昭和33年に開館。考古学694点、醤油関係634点他1万点余りを展示 今後計画しているもの 新博物館の建設用地として一部を取得済み | 鈴木貫太郎記念館 鈴木貫太郎の遺品や当時の絵や写真を展示している施設 現状について 昭和38年に開館。展示品262点のうち約130点を展示 今後計画しているもの 建物の老朽化等により、建物改修を計画 |

【野田市100年の計】

現在の野田、関宿地域は...

- ・野田、関宿地域は県の北西の端で、埼玉県、茨城県との県境
- ・しかし、歴史的には下総国の北の中心
- ・長期的な目で見れば...
- ・圏央道が関宿町の北を通れば、この地域の交通の要衝に
- ・圏央道と北関東自動車道の整備により、この地域が発展の可能性
- ・国で道州制が検討される可能性がある中、県境が今のままとは限らない。

これからの100年間を見据えれば、北関東と東京の中間に位置する野田、関宿地域が一体となって地域の中心的な役割を果たしていくことを検討することも必要。



第1回新市まちづくり委員会の意見

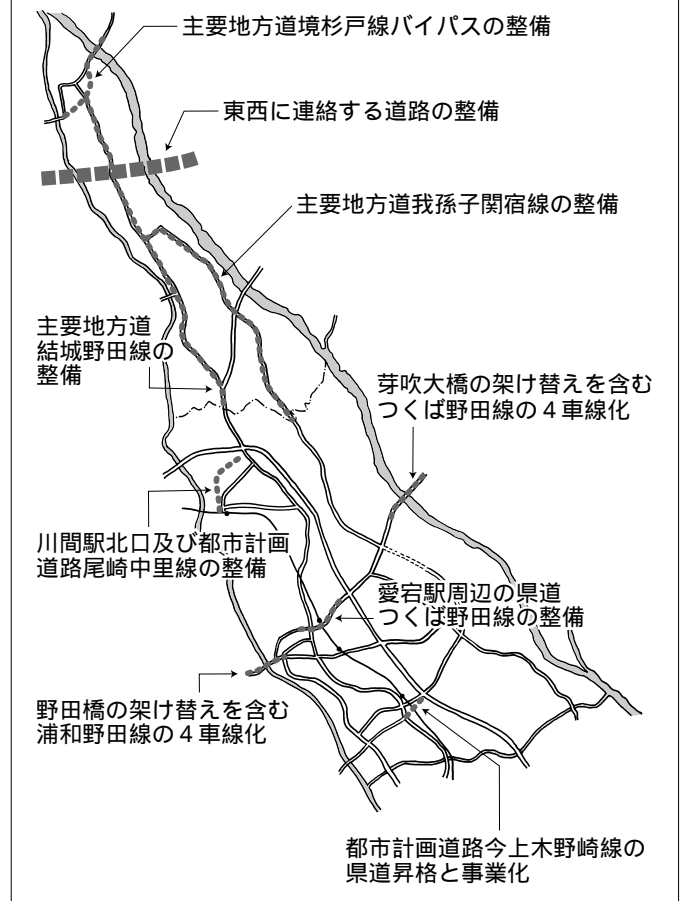
第1回新市まちづくり委員会が出された意見は次のとおりです（6月14日現在）。

課題1 長期構想の重複事項

(1) 関宿町の新市における位置付け

- 関宿町の中心核とされている点を踏まえ、関宿中央ターミナルエリアをどう位置付けるか
- ・野田市に準じた地域サービス核として位置付ける
- ・中央ターミナルは北部交通拠点とし川間駅との関連を図る
- ・バス路線の利用は住民にとって近隣各駅等へのアクセスとして欠かせないことで、利用者の利便として、周辺に公共的あるいは福祉的な施設を設けてはどうか
- ・老人、障害者へのバリアフリーをもっと考えて

千葉県への整備要望箇所



- 安全かつゆとりの場所として活用できるとよい
- ・関宿中央ターミナルは、町役場、公民館等を含む副中心サービス核として進めるべきです
- ・関宿中央ターミナル中心エリアを新市の3つ目の地域サービス核と位置付ければバランスがとれるのではないか

現在の町役場をどう有効活用していくか

- ・関宿コミュニティセンターとして核にする
- ・現在の町役場においては、一部の行政サービス部門を出先機関的に残し、図書館、文化サークル施設に利用できたらよい。特に町役場、周辺地域においては、顔になる文化施設がなければさびれてしまうでしょう
- ・町の商工会館を始め、将棋の関根金次郎記念館又は文化関係施設との併用等に最大限利用できるよう要請します
- ・支所としての活用や、商工会など各団体への貸し出しや、議場はコンサート等のギャラリーとして新市住民が使用できる多目的施設とすることを考えてはいかがか
- ・現在の町役場の一部を含め関宿地区に2か所程度の市役所出張所を設置し市民サービスの向上に努める。また市民の交流の場として公民館と

しても使用する

- ・ 関宿庁舎は支所になると思うが、図書館、文化会館、福祉会館、保健センターの合体された総合会館にすべきと思う。現在でも元町、台町の町民は、役場が遠い。野田庁舎となると距離が倍以上となり、不便さは想像に難くない。支所において今までどおりの処理ができないか。支所の格付けは10年以上も経つと出張所に転落することのないよう確約がほしい
- ・ うば車を利用した老人または自転車だけの利用しかできない人たちを中心に考えた無駄のない、そして住民に喜ばれる町役場の改造を希望します
- ・ 市役所の支所として使用する。空いたスペースを図書館、福祉活動、コミュニティセンター、料理教室等多目的に利用
- ・ 市役所が1つとなるが、関宿への分室は不可欠と思う。通常、市民が利用する市民課などは特に必要
- ・ 町役場の有効活用については、多目的ホール、小会議室を作ってください、できれば小さくともコンサートホールのような場所があればと思う
- ・ 町役場庁舎を図書館や文化施設として利用できるようにしていただきたい
- ・ ITを使って、サービス低下を招かないような出張所を作り、コミュニティセンターとしての役割を持たせる
- ・ 住民が自由に会議などで使えるように、また商工会館に活用、関根名人会館に活用
- ・ 支所として住民サービスに支障のないようにしてください。各種団体等の貸し出し利用案として、関宿町商工会、関根金次郎記念館、住民が使用できる多目的場所の設置として、現公民館設備等を含めて検討してはどうか
- ・ 市立図書館に活用されたらどうか
- ・ 町役場は、将来はともかくとして、当面は市役所の分室として使用することに異論はない
- ・ 合併後の役場を多目的に利用するのがよい

4つの共創ゾーン、6つの共創拠点の考え方を新市のまちづくりにどう生かしていくか

- ・ 野田市の中で、関宿地区の位置付けをきちんとする。農業地区だけとししないで、例えば観光地区にするとか、小規模工業団地とかにする
- ・ 関宿町は地形的に非常に難題のある、南北に細長く、北部地区の「水と歴史の共創ゾーン」から南部地区の「交流の共創ゾーン」までの面的

整備の構想を北に厚くという理念で事業が進められるよう要望します

- ・ 関宿町の長期構想・野田市の長期構想を白紙のかたちに考え戻してみる。そこで共創ゾーンを関宿で大きく1つ、野田で大きく1つに設定し、その中で考えてはいかかが
- ・ 4つの共創ゾーン、6つの共創拠点の考え方は重要であると思われるので、新市としてバランスのとれた配置、推進、完成を目指すべきである
- ・ 農業振興ゾーンについては現在両市町で行われている振興策の良い点を取り入れてより発展させていきたい
- ・ 交通手段の整備を図って、人口増加、企業誘致等を努めることによって、共創ゾーン、共創拠点の考え方も生かされ、都市基盤が徐々に整備されていくのではないかと
- ・ 細長い町にごちゃごちゃと積み込んだ整備されていない印象のある町です。工業地帯は川間周辺にして、水と歴史と緑豊かな町として特徴づけ、安全な食品の産地として、落ち着いたある、楽しめる町にする
- ・ 関宿町のD（せきやどの顔の共創ゾーン）、E（河川敷アミューズメントの共創ゾーン）を副中心サービス核として検討してはどうか

(2) 二重投資のおそれがある施策・事業

公園及び体育施設について

- ・ 関宿町の文化施設又は体育施設等はまだ不十分ですが、現在予定されている体育館を早期に完成させて小さなイベント行事等は地元で行い、新市の大きな行事になった場合、街の中心に出ていけるよう選択の幅がほしい
- ・ テニスコート、体育館、多目的グラウンド等大きな大会ができないので、目的に沿った施設の建設が望ましい
- ・ 体育館等は各地域に必ず学校とともにあるものなので、これ以上必要ない
- ・ 既に完成しているものが多いので計画内容そのものは重複とは考えられない
- ・ 今の野田市では体育館などいろいろな施設がありますが、関宿町にはまだありません。今建設を予定している体育館を町民は望んでいると思う
- ・ 多目的広場といった施設をこれから両市町民が共につかえるよう計画していくことが大切
- ・ 二重投資のおそれのある施策・事業（野田に関するものだけ）

| 整備中のもの | 要・不要 | 今後計画しているもの | 要・不要 |
|------------|------|----------------|------|
| 陸上競技場のトラック | | 陸上競技場のスタンド | |
| 野鳥の森 | | スポーツ公園内町田地区の整備 | |
| | | 墓地公園 | × |
| | | 郷土博物館 | |

必要 要再考 × 不必要

- ・公園及び体育施設は、数多くあった方が良いと思われます。ただし予算上段々きびしくなっていくと思われますので、設置済みのものや整備中のものは継続し、計画中のものについては、もう一度再考した方がよいと思われる
- ・それぞれの施設区分で、利用者等が組織する運営評議会のようなもの或いはモニターの委嘱といったことはされているでしょうか。毎年度の実績や課題等のまとめた、いわゆる「白書」の作成はなされているのでしょうか。判断されるには、基礎となる把握がなければならぬように思われる
- ・運動公園など野田市にある施設などは新たに作る必要はないと思う
- ・自然を利用した公園や運動場などは、計画が重複しているとはいえ近くに必要と思う
- ・21世紀においては、公園及び体育施設の重要性がますます高まっていくことが予測される。二重投資の恐れはあっても、住民の利便性を優先し慎重に進めるべきだ。1つ1つは豪華なものを作る必要はないが、新市全体の土地利用構想を下敷きにアクセスのいい場所を提供する必要がある
- ・墓地公園については、人口構成などから考えて時宜にかなった課題であり、その促進をお考えいただくとよいのではないかと

博物館について

- ・これからは公立の施設であっても、NPO的な組織づくりをされ、そこに運営をゆだねることが望まれる
- ・郷土博物館、鈴木貫太郎記念館は、展示数などから判断して一か所に集約した方がよいと思われる
- ・郷土資料館などは、その地域に基づいた資料などが展示してあるのだから、1つの博物館に収める必要はないと思う
- ・世界的にみても、ここしかないという特徴のある企画が必要だと思う。城下町、宿場町として栄えた歴史と文化、野田市の考古学的なものは関宿城博物館に任せて、鈴木貫太郎記念館は治績を中心に、第二次世界大戦前後の日本の歴史

記念館として再発足。野田市は上花輪地区を中心にして 油産業施設の風致地区として整備する。なぜならば上花輪歴史館、レンガ倉、江戸川河岸、トロッコ道がある。そして、野球場には世界の調味料資料館をつくり、ここにしかないという特徴づけをする

- ・今ある博物館等は現状のまま、もし新しく建設するのなら両市町民が足を運べる中心地域に総合博物館もしくは図書館などいかがか

(3)その他重複事項

- ・総合計画といっても、いまの時代、どんな分野にしても流れが早い世の中です。1～5年の実施期、5～10年の中期、10～20年の長期の3段階に分けて計画をコンサルタントした方がよいと思う。交通のアクセスの発展に伴い、都市計画も見直しをしていくべきだと思う
- ・維持管理の費用だけでも住民の負担になるため、公共の建物など必要のないものはなるべく立てないでほしい
- ・関宿地区等の農村部と都市化区域との関係、位置付けの課題を考えるにあたっては、「都市と農村の結合」という著書に理念をもとめられたい
- ・野田市・関宿町の都市計画はそれぞれの地域にあったビジョンだと思うので尊重して進めるべきと思う。その他、生活環境については時間をかけて地域格差の解消をすすめられたい
- ・清水公園、関宿城、鈴木貫太郎記念館等のPRの促進をとおして観光資源の開発と活用を図る
- ・関宿・野田間は地形が縦長で、交通の便が悪く、現状としては、関宿地域の江戸川河川敷の利用など、地域の特徴を生かした公共施設や公園が必要と思う
- ・高齢者いきがい事業団は、野田シルバー人材センターに合併されることから、現状のまま事業を続け新規事業計画は中止すべき、法人化申請は重複するため無理
- ・川間駅前の拡充と都市計画の整備を推進する
- ・メリット・デメリット面を最大限に検討し、尊重し無駄を省き、両住民が合併してよかったと思えるような街づくりを
- ・図書館やコミュニティセンターなどは行政サービスの平等などからあってもいいのではないかと
- ・重複する施設は多くあるが、管理する側に良い方向でなく、使用する側を中心に各施設等を建設すべきである
- ・地域との交流・コミュニケーションがいろいろ

な面で必要になることから、学校施設をもっと積極的に地域に開放することが良いと思う。その上で、新施設建設の要・不要を判断する考えもある

- ・今回の合併は行政サービスの面からは関宿町によりメリットがあると感じるが、効率的な投資を押し進めてしまうと、アイデンティティの面からみるとマイナスの面が出てくる可能性が高い。両市の行政及び市民の討議を充分つくしていくことが必要だと思う
- ・重複することがあっても、各々規模の違い、設置する地区などによっては重複してもいいと考えられるので、これから相互に話し合いの場を持ち、進めて行けばと考えます
- ・野田市も関宿町も住民の人たちが納得のいく施設整備をお願いします
- ・施設の整備については、さして重複はなさそうなので、財政面のチェックは必要だが順次進めることでよいのではないかと
- ・両市町の総合計画に重複があるのは、指向する方向が同じである故であって当然と思う。今後は諸会議を通じ具体的な問題について率直な意見の交換をし、常にエゴに陥ることなく、大局的な見地から建設的にことを進めるべし。残された自然を大切に守り文化の香り高い新市まちづくりに邁進したいと思う
- ・北部、中部、南部の3つのコミュニティセンターを一つにまとめ公民館や福祉センターとして利用することがよい
- ・小さな町より合併することで大きな町になりその中で中心地域をどう利用するか、また位置付けるかで変わるのではないかと

課題2 一体性の醸成、均衡ある発展のための事業

(1) 野田市政100年の計について

- ・合併に伴い、50年、100年先を考え、埼玉県、茨城県の近隣の市町村を取り込める合併都市の見本となることを踏まえて考える
- ・県内でいち早く合併されるので、環境、自然、経済を中心に近隣のモデル都市となるような新市が必要
- ・関宿町は古くからの城下町であり、歴史のある建物、場所も多く観光面にも活性化が図れる。それには交通の利便性を考え、近県周辺市町村と連携し、更なる交通手段の整備を図って、人口増加、企業誘致等に努め財政基盤の強化を図る

- ・長期的な視点で見れば、圏央道の関宿北方通過実現に向けて促進運動を展開することが重要
- ・道州制は一部で叫ばれているが、実現するとしても途方もない先のことであろう。したがって周囲の市町村や国政、県政の動向には惑わされず、当分は新市の内容充実に特化すべき

(2) 千葉県への要望事項(8件)について

新市の発展は交通体系の整備が最重要課題と考え、次の事業の推進が必要と思う

- 関宿・野田間の県道及び市道の整備
- 関宿・川間駅間のバス路線の充実
- 東武野田線の複線化の促進
- 東京直結鉄道の早期着工

- ・県に要望した道路整備は新市の発展する基盤であるので実現に最大の努力をしてほしい
- ・道路をいくら立派にしても渋滞するようではだめです。スムーズに通れ、往来できる新市になるように望みます
- ・事業そのものは現在の8か所で十分だと思う。しかし現実にはこれを確実に早期に実現することが新市の一番の課題だと思う
- ・野田、関宿の特徴を生かしたまちづくり、道路の整備等はやむをえない。早めにアクセスを良くする
- ・この要望は必要不可欠だと思う。特に南北に走る結城野田線、我孫子関宿線及びその東側を走る農免道路の整備は重要だと思う
- ・県道の工事が途中なので完成を望む。事故が多発しており、通学道路のため子供たちが心配。
- ・結城・野田線の整備を早くしてもらいたい
- ・要望の道路整備箇所には問題はないが、新市は縦長の地形になるので県道のみでなく江戸川沿いの道路の整備も計画すべきではないかと
- ・県への要望事項の道路の整備を完成できるように願いたい。関宿は特に工事途中のところや途切れている箇所があるように思う。もっと道路を広く直線道路にしてほしいところもあります
- ・一体性醸成のため最も身近でインパクトが強い施策として考えられるのは、(1)道路の建設
- (2)鉄道の誘致であろう。特に道路については県への整備要望箇所8か所の実現に向けて努力を傾注すること。その懸命な姿こそ一体性醸成とひいては均衡ある発展を促す原動力となる
- ・野田市100年の計にある夢を持ちつつ、県への整備要望箇所を当面の重点として進める計画でよいと思う
- ・両市町が県に要望している事業内容は、川間駅

前（北口）を除き東西道路（他県からの通過道路）が中心となっているが、これからは16号以外の南北の道路（両市町の市街地専用道路）の整備が必要

- ・県への要望箇所は、どれも大事なことと思います。まして関宿には電車もないし国道も無い。その中で東京方面への通勤する住民は近くに高速道路があることを望んでいる。そのためにも圏央道が関宿町の近くを通ればさらに新市として発展できると思う

(3) その他一体性の醸成、均衡ある発展のための事業

- ・鉄道・モノレールを引くのは難しいので、道路（サイクリングロードも含む）を整備し、一体化する
- ・水上バスや、野鳥の森、利根川のサイクリング道路など関宿・野田両地区の共通の利根川、江戸川を生かしたまちづくりを望む
- ・住民が気がねなく、行政の中に入ってボランティア活動や福祉活動など出来るような新市にしていくべきだと思う。またガラス張りの行政を目指してほしい
- ・「新聞記事の新聞」（「川重、野田工場閉鎖、播磨に移管」という見出しの記事、このようなものを基本目標の6区分に分類し、野田市・関宿町ミックスに並べて編集したもの）を作成して、各自治会に配布回覧したり、図書館やコミュニティセンターで掲示するように
- ・野田市・関宿町に土地を有している野田市・関宿町以外に住んでいる人（ふるさと市民・町民）への広報誌や「新聞記事の新聞」の発送
- ・野田市民、関宿町民及びふるさと市民・町民を対象にまちづくりをテーマとした作文を募集
- ・関宿・野田間の今以上の交通機関（バス）の整備
- ・野田地区には図書館があるが、関宿にはなく、不便をきたしているのので、関宿にも必要と考える
- ・地元根付いた郷土文化及び歴史的資源の保存
- ・上下水道・ガス・道路・街灯等の統一。道路整備については、野田よりおくれがあり、特に江戸川沿いは野田と関宿との境からセンターラインが引かれてなく、事故も多発している
- ・授業内容、土・日の特別授業など教育行政の統一化
- ・ゴミ回収（分別）再利用を図る
- ・公共施設の相互利用を図る
- ・地理的にみると新市の中心は川間地区あたりと

みられ、長期的には、本庁舎を川間駅周辺に建設した方がよいと思われる。また周辺の道路整備の必要性もある。当面は現在の野田市庁舎を使用する

- ・市役所、支所、櫛のホール、やすらぎの郷等めばしい建物を巡り、買い物ができる「巡回バス」の運行
- ・公民館、児童館等の子育て支援事業、生涯学習事業の連携と協力を計って、住民によりよい暮らしやすい地域環境を整える
- ・関宿町からの車を運転できない人たちのことを考え、現在のバス路線に加えて総合体育館前、櫛ホール前、文化会館前行きを希望します
- ・サークル活動を広げ、仲間づくりの輪を広げる
- ・公共サービスの均等化と同時に負担の同一化を
- ・土地利用については、野田市総合計画都市構造、土地利用イメージ図を基本として、川間駅北口の開発の推進、東武線の複線化の促進、関宿には路線バスの増発と老人福祉施設の建設や風力、太陽熱などの自然エネルギー利用の拠点化、ごみ焼却熱の利用推進を図る
- ・電車が通っていない関宿の住民にとって、バスや車は重要な足です。バス運行の増便、路線の拡張、道路整備など地域格差のない交通網の整理が重要ではないか
- ・野田市の3つの商業地域を中心とした市街地の形成に、関宿町における2つの商業地域を中心とした市街地の形成の追加による、バランスのとれた人口の配置なども考慮にいれてもいいのではないか
- ・旧所名跡の地としても、観光地としてPRしていけるのではないか
- ・防災に関して早めに対応できる地区割システム、病院の対応等の管理を早めに
- ・キャッチフレーズを「水と農業、川と森、工業と商業、バランスのとれた人にやさしい住みよい都市にしよう」に
- ・野田・関宿の交通網整備を進め、相互の交流を深めて、ゆとりのあるより良い都市づくりを目指す
- ・交通（バスがどこでも止めることが出来たり）の件に力を入れていただきたい
- ・両市町が合併することによって、よりバラエティに富んだ観光ポイントを提供することができるようになる。観光の振興を通して一体性が醸成できるのではないか
- ・三方河川に囲まれている立地条件をPRし、サ

イクリングロードや河川敷を利用したリクリエーションに両市の住民が参加し、交流することにより一体性を醸成していけるし、整備を進めることにより観光ポイントにもなりうる

- ・伝統を守り、学校、地域、家庭における教育の必要性等を考えたい
- ・町（市）の発展として、駅前整備等。
- ・合併後の一体感の強化は、具体的には川間駅等へ容易にアクセスを可能とする道路、街路、駅前広場であり、また、国道16号と利根川との間に関宿から梅郷まで貫通する道路の整備であると考え
- ・実感として1つの町になってよかったと思えるのは、身近なことのいろいろなところで感じるもので、いままで野田市が市長さんを中心にゴミ、老人福祉、教育、施設などさまざまなことを合併後も力を入れて、進めてもらいたい
- ・関宿城から江戸川・利根川の土手、運河という川に囲まれた町として、地理的な特性を生かした街づくりが考えられるのではないかと
- ・例えば、関宿より野田まで路面電車のようなものがあると考えています。お互いの住民が何を望んでいるかを把握し、進めて行けばいいと思います
- ・平成元年度から続いている、手づくりフェスティバル（体操系）を関宿さんと一緒に今後続けられたらよいのではないかと考えています
- ・野田市と関宿との合併にともない、両方のつりあいが取れる事業として高齢化が進む現在、お年寄りが気楽に役所、商店街に来られるような無料バスの運行を一日数回走らせ、商店街の活性化につなげる
- ・野田住民と関宿住民が理解しあい、意識改革を図るためには文化、スポーツ、観光、ふれあい農業、健康祭りなどを通して、交流を図ることが、まず第1だと思う。
- ・今この不景気の時代に2つの市と町が協力して簡素化して乗り切っていければ良いと思います。市役所は関宿の方も野田に移ると思いますが、いままでどおり関宿の方で手続きができるようにしてほしいです。どちらかの市か町にデメリットがあったら必ずメリットがあるようにしてください。噂では、野田市のごみが関宿に来るようになると聞いていますが、その場合はごみ処理場に温水プールをつくり、町民全員が利用できるようなマイクロバスを運行してほしいと思います

- ・江戸川堤防の道路を野田と同じ幅にしてもらいたい
- ・関宿の住民が市役所その他施設に行く交通の便の検討も必要ではないか
- ・高齢化が進む中、車が無くしては行動できないことが多いです。他の町のように巡回バスを是非出してほしい
- ・地下鉄8号線誘致問題は、野田市が中心となることはやむをえないが、関宿も利を得られるような交通アクセスを実現したい。あるいは、野田 関宿 岩井方面ルートに可能なら最高である
- ・野田は 油城下町として（大宅壮一命名）関宿は江戸幕府直轄の城下町として歴史と伝統・文化を持つ。相互に共鳴し合って個々の持つ力の数倍、数十倍或いは数百倍の威力を発揮し得る可能性を秘めていると思料する。この両役者をいかに演じさせるかが、演出者である新市に寄せられた課題である
- ・大きな構想の実現に当たっては、諺にあるように“天の時、地の利、人の和”がその根幹をなす。今やその絶好のタイミングの中に置かれている感を強くするのは小生だけではあるまい。多くの市町民がその認識を持っていると思う。故にこのチャンスを逃がすことなく実現に向かって一路邁進すべきだ。幸いなことに、この日のために用意されたかのように両市町は衆知を結集して作成された「総合計画書」を持っている。これからはこれをたたき台にして、各部門にわたりその実行実現に更に叡智を結集し前進すべし
- ・新市住民の一体性醸成のためには コミュニケーション、福祉、文化・教育を重点とした事業に絞ることが望まれる
- ・両市町には公立の病院が無いので、これを盛り込んでほしい
- ・福祉やコミュニティ施設においても、新市の住民が交流しやすくするための交通網の整備（バス等）や道路の整備が必要
- ・これからの両市の街づくり（商工、農業、観光 etc）の実施段階では、両市町の持てる資源（自然と地域特性、農、工、住）を一体として再開発を考えるべき。例えば、野田市の中心...野田市駅の周辺は、工業地区の中にあつて再開発の障害となっているが一部の工業の関宿地区への転出も考えられる
- ・関宿地区の農地再開発の一案として、住居地区

住民のための農業公園とか坪貸し農園なども

- ・ 一体性醸成、均衡ある発展のための事業は重複や過大な公共投資とならないよう市政の合理化や公立学校の余剰教室の有効再利用も必要

合併に関するその他の意見

- ・ 野田市・関宿町の合併ができるだけ早く実現できるように努力していただきたい。社会的にも人道上からも必要なことだと思う
- ・ 人と人との交流が多いことは社会的豊かさの要因の一つと思う
- ・ 関宿町にも文化事業があると思います。そういった面での知識を得、また資料などを見て考えてみたい
- ・ 合併してよかったと喜ばれる新市にしたい
- ・ ゴミ収集方法、分別方法等生活に即影響する事務事業調整は最優先にし、発表すべきだ
- ・ 会報、議会報等役所刊行物の配布方法を考えるべき
- ・ 区長制度の見直し再編成が必要
- ・ 区長、班長、クリーン推進委員等諸手当が支給されているが検討すべき
- ・ 消防車、救急車、水防等広域行政で境町、幸手市と連携はしているが、分署がないので思うようにいかない。特に救急車は到着まで時間がかかり不安である。合併を機会に分署の建設をお願いしたい
- ・ 補助金、交付金、支給制度、助成金、利子補給、分担金、負担金、報奨金は合併を機に見直しが望ましい
- ・ 町民サービス課は、町民にとり頼りになる課であるため、是非存続してもらいたい
- ・ 週5日制は親子にとって大変なことであり、学童保育が予算の関係で民間委託にならないようにすべき
- ・ 県立関宿高校の存続が気になり、子供たちの不安を解消してほしい
- ・ 乳ガン検診は女性にとって最大の関心であり、現状の体制存続を願う
- ・ 新市まちづくり委員会は質問の余地のない審議会形式にし、賛否を問うだけでよいのではないか
- ・ 「合併において関宿という名前が消えてしまうのは寂しい」という声が聞こえましたが、合併しても地域の名前として、残せる方法を考えてもらいたい
- ・ 新市の名称についても納得のある、わだかまりのないように進めたい

- ・ 住民税、固定資産税、国民健康保険等々どうなるかという事、これらの事項について市民にわかりやすい説明公表が必要と思う
- ・ ホームページに工夫をしていただき、質問ができるようにすると良いし、質問集と回答も情報としたら、もっと奥深い情報源となる
- ・ 野田市の対国、対県等の地位ないしは発言力を高めることから、現野田市当局は勿論、現野田市民も、小異は捨て大同につくという度量をもって対応し、合併の早期実現を図るべきである
- ・ 合併後の新市の名称は、現関宿住民の不安を考慮しても「野田市」とせざるをえない
- ・ 優良牛の導入の助成をお願いしたい
- ・ 合併には大賛成です。そして明るい希望が輝いています。市民、町民の期待は非常に大きいものがあります。その期待は現在より少しでも前進し、飛躍することにあるのではないのでしょうか。そして合併後には、3年間程度の処理委員会を発足させ、ケースバイケースに問題を処理し、多くの市民と町民の合併による不安と不満を解消し、新市への期待と満足度は広がるのではないのでしょうか
- ・ 大きな事業も大切ですが、小さなことも数多くあると思います。私が住んでいる場所では消防車が入れないほどせまい住宅地、市民と町民が満足できるような住みよいまちづくりが必要だと思います
- ・ 行政組織のスリム化は必要であり職員数は流山市なみの効率性にするには必要です。定年の不補充は賛成です。また必要性の高い専門職の採用増強は必要と思います
 - 行政のスリム化の推進
 - 市職員の定数の削減
 - 市議会議員の定数の削減
 - 各種委員会の委員の削減
- ・ IT化の促進により市職員の削減
- ・ 行政のスリム化については、行政サービスの低下なしで、2割削減あるいは、それ以上に見合ったワークシェアリングは可能だと思う
- ・ 議員定数の削減と定年65歳を実施してほしい
- ・ 人件費のスリム化。市会議員の削減、30名程度
- ・ 総括して主張したいことは、当然のことながら無駄な費用は一切かけないこと。一見非常なことと思えることも臆することなく大義の前の小事と切り捨てる勇気も必要。民間企業の苦闘する姿がいかに凄まじいものかを知ること必要。

パーキンソンの法則が示しているように、お役所の組織は黙っていると限りなく膨脹するものであるということを強く認識すべき

- ・関宿町では、基幹産業である酪農の振興に行政の力を傾注して来ています。そのため県内でも有数の主産地となっているが、さらに安定した酪農経営を行えるよう希望します。(後継者育成

の問題、環境の問題、農地の流動化の問題、草地拡充の問題、牛乳の問題)

- ・高齢者の施設サービスやバリアフリー化等高齢化の進展により生きがいづくりや健康づくりの環境を考えたい
- ・老人社会に向けての政策も進めていただきたい。特にボランティア労働貯蓄等検討いただきたい。

地区別懇談会のお知らせ

両市町の総合計画策定時にも地区別懇談会を開催いたしました。同様に、今回も地区別懇談会を開催して住民の皆さんのご意見をお聞きして、新市のまちづくり計画(市町村建設計画)を策定

しようとするものです。次の日程で、地区別懇談会を開催いたしますので、新市のまちづくりに関する課題についての皆さんのご意見をお聞かせください。

| 月 日 | 時 間 | 場 所 | |
|----------|-------------|------------|--------------|
| | | 野 田 市 | 関 宿 町 |
| 7月5日(金) | 19:00~21:00 | 南コミュニティ会館 | |
| 7月6日(土) | 10:00~12:00 | 川間公民館 | 中部コミュニティセンター |
| | 13:00~15:00 | 東部公民館 | |
| | 14:00~16:00 | | 南部コミュニティセンター |
| | 16:00~18:00 | 北部公民館 | |
| 7月9日(火) | 19:00~21:00 | 中央コミュニティ会館 | |
| 7月11日(木) | 19:00~21:00 | 北コミュニティ会館 | |
| 7月13日(土) | 10:00~12:00 | 福田公民館 | |
| | 13:00~15:00 | 南部梅郷公民館 | |
| | 14:00~16:00 | | 北部コミュニティセンター |
| | 15:30~17:30 | 中央公民館 | |
| | 19:00~21:00 | | 関宿町公民館 |

なお、ご都合のつく時間にどちらへでもご自由にご参加ください。

ホームページでもご覧いただけます

野田市・関宿町合併協議会では、ホームページを開設しています。このホームページでは、これまでの協議会の会議資料や議事録をはじめ、合併協議に関する様々な情報を、いつでもご覧いただくことができます。

また、ホームページの中に「皆さまの意見をお聞かせください」のコーナーを設置しておりますので、市町村建設計画や合併に関する皆さんのご意見・ご要望等をお受けいたします。

なお、合併協議会ホームページのアドレスは、下記のとおりです。

専用ファイルを配布します

「野田市・関宿町合併協議会だより」を保存するために、A4判の専用ファイルを7月中旬に各世帯にお配りします。

今までに発行したものや、今後発行する「合併協議会だより」を専用ファイルに綴って保管していただき、今後、皆さんが、合併に関して判断する材料としてください。



あなたの声をお寄せください

新市のまちづくりに関する課題について、皆様のご意見やご提案をお寄せください。

ご意見等をご記入のうえ、用紙を切り取り、のり付けして、平成14年7月19日までに投函してください。なお、ご意見やご提案はファックスでも受け付けております。（切手を貼る必要はありません。）

（切り取り線）

内側に折る

新市のまちづくりに関する課題についてのご意見

| | | | |
|----|--|----|--|
| 氏名 | | 住所 | |
|----|--|----|--|

課題1：長期構想の重複事項に対するご意見

課題2：一体性の醸成、均衡ある発展のための事業に対するご意見

内側に折る

内側に折る

用紙が足りない場合はお手数ですが本紙をコピーするか又は別紙にてご記入ください。

（切り取り線）

問い合わせ
(あて先)

〒 278- 8550
野田市鶴奉 7- 1
野田市・関宿町合併協議会事務局
電 話： 7125- 1111(内線 2713~ 2715)
F A X： 7125- 5671

ウ ー ー ー

住所

氏名

のりしろ

のりしろ

折る)



料金受取人払
野田局承認

39

差出有効期間
平成 14年 12月
3日まで
(切手不用)

(切り取り線)

2788790

(受取人)

千葉県野田市鶴奉 7番地の 1

野田市・関宿町合併協議会事務局 行

(切り取り線)